

# 古河提灯竿もみまつり



(表紙写真提供：古河市)

「関東の奇祭」ともいわれる「古河提灯竿もみまつり」は、市内の各団体の若者が、先端に提灯を付けた十間（約18m）の竹竿を支えながら、丸太を縦横に荒く組んだ矢来やらいの中で、相手の提灯の火を消そうと激しくもみ合う荒々しい祭りです。

祭りの起源は江戸時代にまで遡り、古河藩領（現 栃木県野木町）にあった野木神社に伝えられる「七郷めぐり」に付随する行事に由来といわれています。

七郷めぐりは、神社の神官が御神体である神鈴かみほこを奉じて馬に乗り、神社の神領である七つの村の末社を順に巡る神事です。12月3日末明、参拝者は竿に提灯、腰に鈴を付け、古河へ向かう日光街道で御一行の御帰社（おかえり）を待ちました。しかし、外は鍋釜も割れるほどの気温。参拝者はこの寒さをしのぐため、提灯を持ち、身体を揉み合って暖を取りました。これが提灯竿もみまつりの原型です。

明治初期の廃藩置県において、古河藩は栃木県と茨城県に分かれたため、古河市の提灯竿もみまつり（愛称 おかえり）として発展しました。

祭り会場には、両側に高さ約13m、幅約80mの矢来が組まれ、参加団体の提灯が付いた長い竹竿が並びます。当日は、競技もみと自由もみが実施され、提灯同士が激しくぶつかり合って火の粉が飛び散る様は、大迫力で勇壮です。

今年で第156回目を迎える古河提灯竿もみまつりは、毎年12月の第1土曜日に開催されており、今年には12月3日に開催予定です。

ご家族・ご友人とともに、寒い冬の夜、火花散る迫力の祭りを観覧してみたいかでしょうか。



◆場 所：茨城県古河市本町2丁目

JR古河駅西口おまつり特設会場

駐 車 場：来場者駐車場は古河第二小学校をご利用下さい。

アクセス：【電車】 JR東北本線「古河駅」より徒歩で1分

【車】 東北自動車道 館林ICより車で約20分